

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2018年7・8月号

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第596号

長年に亘り、関東活動センター所長代行として奉仕して来られた横野朝彦先生が退任され、この4月よりその任を受け継ぐことになりました。微力ではありますが、託された務めを精一杯果たしていきたいと考えております。何とぞよろしくお願いいたします。

先日、カンヌ国際映画祭の最高賞であるパルムドール賞を受賞した、是枝裕和監督の作品「万引き家族」を観てきました。鑑賞中は、ただただ違和感が先行し、現代社会の家族の現実を虚構化させたものではないかと感じていました。が、終わった瞬間、イエスが福音書の中で、母マリアや兄弟たちがいる前で、「わたしの母、わたしの兄弟とはだれか」と語られたシーンを思い浮かべながら、改めて人と人とを結びつけ、お互いの信頼を支えるものとは何かという、重く深い問いを突きつけられたというのが実感でした。

え狭い家に、無造作に所狭しとものが置かれ、窮屈そうに暮らしている。別に喧嘩が絶えないわけでもないし、ものすごく仲がよいわけでもない。しかし不思議な結束がある。というのがこの映画の内容です。

な結束を紡ぐ材料ではあったものの、ある日、虐待を受けた女の子を引き取ったことから、家族の秘密が徐々に明らかになり、その暮らした次第に亀裂が入り始めます。そしてその傷を塞ごうと、それぞれが必死にもがきはじめていくのです。

いるのではない。けれどもこの映画は不思議と私たちにそういつた線引きをさせないのです。皆、同じ社会の一員であり、同じ悩み、痛みを背負っている存在なのだ、そう思わせてくれるのが、またこの映画の魅力なのだと思います。

見えざる人々の声に聴く



関東運営委員・関東活動センター所長代行 原 牧人

員長であった俳優ケイト・ブランシェットさんは、この映画の評価として、「社会で抑圧されていたり、つながりや愛を求めていたりする『見えざる人々』に声を与えた」と総括しています。

年金の不正受給、そして万引き常習。現代社会で実際に起こっている題材を通して、社会から置き去りにされた「見えざる人々」を可視化していく。これが是枝監督の強い思いでした。しかし私たちはそうしていることをする人は心が病んでいるのであって、自分とは違うと、線引きをしてしまうのです。同じ世界に生きて

今この社会は、声の大きな人たちの思いだけが響き、幅をきかせ、見えざる立場に置かれている人々の声が、世に響かない。むしろその声を聴こうともしない。それが現実です。それは教会にも問われています。審査委員長が、「見えざる人々に声を与えた」と賞賛したように、「見えざる人々」の声に聴き、社会で抑圧された人たちが、しっかりと声を出すことのできるような環境が整えられていく。それが本当の平和で豊かな社会というものでしょう。

(日本基督教団豊洲教会牧師)

関東活動センター

●2018年度 関東フォーラム 宗教対話
「礼拝のためのボイストレーニング」
(全5回)

講師：元声優、日本キリスト教
団経堂緑岡教会担任教師

友野 富美子さん

2018年5月28日(月)〜6月25日(月)

会場 日本聖書神学校

「礼拝のためのボイストレー
ニング」を受講して

小林 明代

講座は、毎回祈りから始め
られました。「主なる神よ。」
と神を呼びかける友野富美子
先生の一声で、日常生活とは
別空間へ、いざなわれる感覚。
また共に祈る中で神様に導か
れ、この場にいると実感でき
たことは貴重な体験でした。
このような心の準備(祈り)
に続いて行うのが体の準備で
す。靴を脱ぎ、足の指の間に



「毎日私たちの体は頑張つて
手の指を挟み、ほぐしながら
くれているよね。」と自分の
体を大切にする方法の伝授。
そして実践に移るのですが、
声のキャッチボールゲーム、
聖書「創世記1章」、本「い
のちの水」の朗読を繰り返し
行いました。友野先生は手本
を示すのではなく、受講者一
人一人が文章から何を感じ、
どのように読みたいかを丁寧
に聞き、また個人の声の性質
を生かした読み方やスピード
をアドバイスして下さいまし
た。また受講者同士で朗読
し、感じた事を伝え合いまし
たが、例えば「創世記1章12
節は、草木がポコポコと芽を
出す風景が浮かびました。」
と感想を述べると「そのよう
にイメージして読んだこと
が、どうしてわかったのです

か!」というやり取りが生ま
れたり、「もつと遠慮せず、
声を張った方がよいと思う。」
というアドバイスから、自分
の声や体格の大きさを気にし
ていた事や、まわりをたてる
ために控えめに過ごしてきた
自分自身の内なる声に気づい
たという方もいらつしやいま
した。今回の講座の中で、声
(心)の届け方の大切さと共
に、聴く耳の養い方も大切だ
ということも感じました。神
様から頂いている恵みを多く
の方々と分かち合うために、
また豊かな礼拝が守られるた
めに、神様が私に下さったギ
フトを見直し、教えていただ
いた賜物の磨き方を実践して
いきたいと思えます。最後に、
友野先生と受講者の方々との
出会い、そして豊かな時間を
過ごせたことに感謝申し上げ
ます。

「ことば」を届ける

小笠原公子

礼拝後、マイクなしで報告
しようと声を張り上げたら、
牧師が一言、「その声では3
分持ちません。」これに背中
を押され、受けたかった「ボ
イストレーニング」に、つい



に参加。友野先生による週一
で5回の訓練は、発見の連続
でした。その一部を紹介しま
す。

その一、声は身体と意識に
よって変わる。身体を足指先
から全身をほぐし、ゆったり
呼吸する。大勢の前で話す時
も、具体的な位置の一人に届
けようと意識して、声を出す
こと。

自分の声が小さいことに気
づかされたのは、毎回行われ
た「声のキャッチボール」で
した。

教室の端に直面する人に、
ボール投げのジェスチャーで
「はい!」と声を投げ、相手
の声を「どうも!」と言って
受けますが、投げる声が小さ
いと、受ける方は声のボール
を受け取ろうと、自然に体が
前に出ます。届かない時は、
「声がそこに落ちた!」声と
ジェスチャーを同期させる

と、受ける側も身体が反応し、
声を受けようと自然に動くこ
とを実感しました。びっくり
です。十人位の個性豊かなお
仲間との共同訓練、とても楽
しめました。

その二、司会の聖書朗読の
際、耳で聞いてわかるように
読むため、内容理解、読む際
の息継ぎ等の「アナリーゼ(分
析)」をしておくこと。聖書箇
所や絵本(『いのちの水』)の
数節ずつを輪読して、お互い
気づいたことを伝えあうので
すが、意図の如何に関わらず、
読む時の気持や迷いがちゃん
と伝わってしまうのです。

聖書朗読は、書いてある翻
訳のまま読むため、葛藤を感
じることもありませんが、朗読
者は、テキストを声で届ける
ことで説教者の解説につなげ
ることが役割と理解しました。

その三、私は最近声が出し
にくく感じていましたが、精
神的な余分な力が入っていた
ことに気づかされました。自
分が一番出しやすい本来の声
を知り、無理せずに、他の方々
と言葉を届けあつていきたい
と、今はなんだか安らかな気
持です。ありがとうございます。

関西セミナーハウス活動センター

●2018年度 修学院フォーラム「社会」第2回

「東アジアの平和と和解—近代日本人のアジア認識と平和の取り組みの可能性」

関西学院大学商学部教授・宗教主事 山本 俊正さん
2018年5月12日(土)



70年を越える朝鮮半島の分断に終止符を打ち、平和的統一に大きな一歩を踏みだすと期待される米朝首脳会談を1ヶ月後に控えた日、このプログラムは開催された。講師は、元日本キリスト教協議会(NCC)総幹事で、長年日本、韓国、北朝鮮、中国の教会を繋ぐことに尽力してこられた山本俊正さんである。山本さんに、これまでの日本の教会のアジアの教会に対する関わりの歴史を踏まえ、今始まりつつある朝鮮半島の和解の意義を語って頂き、私達の責任について考えたいと思っ

た。これは、日本のキリスト者が今、考え、関与すべき重要課題であると考えられた。山本さんは先ず、近代日本は、アジアを文明度の低い地域とみなし、アジアは一つ、大東亜共栄圏を作ると言いながら、実は侵略を行った、そこに朝鮮半島分断の原因がある、と指摘した。戦後日本の教会は、戦時中侵略に加担したことを悔い、謝罪し、NCCや世界教会協議会(WCC)を通して、相互訪問や、人道的支援活動を行い、中国や朝鮮半島の教会と和解と協力の関係を築き、南北朝鮮の平和的統一にも寄与できることを願ってきた。例えば、2001年からは日本のNGOが中心になって、日本、韓国、北朝鮮、中国の子どもの絵画展を毎年、これらの国で開催し、子どもたちが絵

やメッセージを通して出会う場を作ることも試みてきた。そんな歩みの中で、今回の南北首脳の朝鮮半島の平和的統一を目指す板門店宣言を聴くことになった。韓国のキリスト教協議会は早速、これは朝鮮半島の和解と平和の新しい歴史の始まりだとする声明を発表した。山本さんは、1ヶ月

月後の米朝首脳会談が、この平和への歩みをさらに具体化させ、日本、中国、ロシアを含めた東北アジアに新しい平和の関係を構築するスタートラインになることを期待すると結んだ。参加者は少数であったが、密度の濃い話し合いを持つことができた。

●2018年度 修学院フォーラム「福祉」第1回
『「貧困世代」の未来をどう創るか
～若者の貧困を考える～』

NPO法人ほっとプラス代表理事、
聖学院大学人間福祉学部客員准教授 藤田 孝典さん
2018年6月9日(土)
共催・会場 京都YWCA



講師の藤田さんは、2015年に「下流老人—一億総老後崩壊の衝撃」(朝日新書)を出版し、生活保護基準相当で暮らす高齢者およびその恐れがある高齢者を「下流老人」と定義し、高齢者の貧困の実

像に迫った。その本を書き進める中で彼は、これから高齢期を迎える若者たちへの支援が十分でない、彼らが老後を迎えた時、現在の高齢者よりひどい生活状況に追い込まれると気づき、「貧困世代 社会の監獄に閉じ込められた若者たち」(2016年、講談社)を書いた。今回の発題は、それを発展させたものであった。今の日本では、生活保護基準以下で生活することを強い

られている人が3000万人、相対的貧困率は人口の15.6%にも達し、OECD加盟国中6位に位置する。とりわけ20〜64歳の単身女性では3人に1人が貧困状態にある。多くの若者が貧しいために結婚できず、生涯未婚率を押し上げている。欧米では、住宅手当が支給されるが、日本ではそれがなく、住宅費が高いので、39歳以下の人の47.6%の人が実家から離れないでいる。リーマン・ショック以後、企業の収益の多くが内部留保に回され、労働者の賃金に反映されず、賃金が低く抑えられたままである。とりわけひとり親世帯の収入が低く、母子家庭の82.7%が生活が苦しいと訴えている。17歳以下の子ども7人に1人、250万人が貧困状態にあり、大学への進学率が低くなっている。奨学金は、有利子のため返済に苦しむ若者が増えている。現代の若者たちは、自力ではもはや避けようがない、日本社会から強いられた貧困に直面している「貧困世代」である。早急に

子供の学習支援、生活支援 (次ページに続く)

プログラム案内

◆関東活動センター

■2018年度聖書を読む講座I

新しい聖書の学び「マルコ福音書をジックリと読む」(第1期)(全10回)

講師:山口里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時:2018年4月~2019年2月 第2火曜18:30~20:00

会場:早稲田奉仕園スコットホール222号室

参加費:1,200円/学生500円

共催:早稲田奉仕園

■2018年度関東フォーラム 宗教対話I

「日本キリスト教史を読む」II (大正篇全7回)

講師:戒能 信生さん(日本基督教団千代田教会牧師)

第4回「金井為一郎 その神秘主義的信仰と祈りの姿勢」

日時:9月13日(木)14:00~16:00

第5回「賀川豊彦 その生涯と贖罪愛の信仰」

日時:10月11日(木)14:00~16:00

会場:早稲田奉仕園セミナーハウス101号室

参加費:1回500円

◆関西セミナーハウス活動センター

■月釜 清心会

日時:9月9日(日)・10月14日(日) 9:00~15:00 受付

於:関西セミナーハウス

年会費:4,000円、臨時会費1,000円

■2018年度お茶のこころと宗教のこころ

「聖書をいっしょに読みましょう」

財団本部 http://www.academy-nippon.com
関東活動センター http://www.academy-tokyo.com
関西セミナーハウス http://www.kansai-seminarhouse.com/
関西セミナーハウス活動センター http://www.academy-kansai.org

公益財団法人 日本キリスト教アカデミー
代表理事 小久保 正

本部事務局
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館1F
TEL 03-3207-6198
E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス/
関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス
TEL 075-711-2115
E-mail:info@kansai-seminarhouse.com
関西セミナーハウス活動センター
TEL 075-711-2117
E-mail:office@academy-kansai.org

座長:榎本 栄次さん(日本基督教団牧師)

日時:⑤9月6日、⑥10月4日(全8回) 第1木曜13:30~16:30

会場:関西セミナーハウス

参加費:1回1,500円 学生500円 (抹茶含む)

■2018年度修学院フォーラム「いのち」

第2回「ゲノム編集とデザイナー・ベビー~ヒトの遺伝子操作が現実になる」

講師:中山 潤一さん(基礎生物学研究所 クロマチン制御研究部門教授)

日時:9月8日(土)13:30~17:30

会場:関西セミナーハウス

参加費:2,300円、学生1,000円

■2018年度修学院フォーラム「社会」

<宗教と戦争を考える-6> 第4回「宗教改革者の戦争観」

講師:村上 みかさん(同志社大学神学部教授)

日時:10月6日(土)13:30~17:30

会場:関西セミナーハウス

参加費:2,300円、学生1,000円(込)

■2018年度開発教育セミナー

第3回「ロヒンギャはなぜ難民に

保護者の就労支援、経済的支援などの具体策が立てられなければ、日本社会は崩壊へ向かうことになる。
発題講演の後、年取120万円の35歳の人が貧困から抜け出すにはどうすれば良いかを、グループに分かれて考え合い、それがいか

なったのか?~ビルマ(ミャンマー)の来し方行く末」

講師:宇田 有三さん(フォトジャーナリスト)

日時:9月15日(土)16:00~16日(日)12:00

第4回「新しい日米外交を切り拓く~沖縄・安保・原発・TPP」

講師:猿田 佐世さん(新外交イニシアティブ代表)

日時:10月13日(土)16:00~14日(日)12:00

会場:関西セミナーハウス

参加費:10,500円(1泊2食込)

賛助会費・寄付金報告

2018年6月1日~6月30日 (順不同・敬称略)

Table with 2 columns: Donor Name and Amount. Includes entries for 関東活動センター, 関西セミナーハウス, and various individuals.

寄付金
恒 10,000
坪野 えり子 3,000
河合 良子 1,000
君村 千代子 1,000
佐々木 紘児 1,000
多田出 佳代子 1,000
廣瀬 芳之 1,000
藤本 和子 1,000
南 和子 1,000
安野 優美 1,000
山本 良昭 1,000
米澤 敏子 1,000
姫野 真知夫 5,000
高橋 望 1,000
以上、感謝をもってご報告申し上げます。